

第1章

信濃町水道事業ビジョン策定の趣旨

1.1 信濃町水道事業ビジョン策定の趣旨

1.2 信濃町水道事業ビジョンの位置づけ





1.1 信濃町水道事業ビジョン策定の趣旨

(1) 水道を取り巻く環境と「新水道ビジョン」の公表

我が国では現在、水道普及率が 97.7%までに達し、ほぼ全ての国民が水道を使用するようになりました。水道は、社会経済活動に欠かせないライフラインとなり、近年では更に高い水準で、安全な水をいつまでも安定して供給することが求められるようになっていきます。

このような状況の中、厚生労働省は平成 16 年 6 月に「水道ビジョン」を公表し、水道に関する重点的な政策課題とその課題に対処するための具体的な方策や工程等を示しました。全国の水道事業者に対しては、「水道ビジョン」を踏まえ、国で示した政策課題について、それぞれの地域特性に合った「地域水道ビジョン」を策定するよう要請がなされました。

その後、人口減少時代の到来が確定的になり、更には平成 23 年 3 月に東日本大震災が発生したことで、水道を取り巻く環境は「水道ビジョン」公表時から大きく変化しました。給水人口の減少による料金収入の減少、老朽施設の増大、大規模地震等への備えなど、その環境は年々厳しさを増している状況にあります。

このような環境の変化を受け、厚生労働省は平成 25 年 3 月に、来るべき時代に求められる課題に挑戦するためのビジョン「新水道ビジョン」を公表しました。この「新水道ビジョン」では基本理念を「地域とともに、信頼を未来につなぐ日本の水道」とし、目指すべき理想像を「持続（水道サービスの持続性の確保）」・「安全（安全な水の供給の保証）」・「強靱（危機管理への対応の徹底）」としています。各水道事業者においても、さまざまな連携と役割分担に応じた取組を進めるため、「水道事業ビジョン（地域水道ビジョン）」の策定を求めています。

(2) 信濃町水道事業ビジョン策定の経緯

信濃町の水道は、昭和 29 年に旧柏原村で給水を開始して以来、これまで住民生活に欠かすことのできない水を安全かつ安定的に供給してきました。現在の給水区域は、別荘地などの私営水道の区域等を除く町内ほぼ全域で水道普及率は 97.7%という状況です。

本町の水道においても、人口の減少や節水型機器の普及、企業のコスト削減等により水需要は年々減少し、それに伴って水道料金収入が急減しています。一方、町勢の発展や生活水準の向上による水需要の増加に対応するために高度経済成長時代に集中的に建設した水道施設は更新時期に入っています。今後、老朽化した水道施設の更新などに係る費用の増加が見込まれています。

このように水道事業を取り巻く環境の変化は本町においても例外ではなく、これまでの水道施設の拡張を前提とした施策から、事業環境を加味した施策への転換が必要であり、安全かつ良質でおいしい水を将来にわたって供給することを目指していかなければなりません。

これらを受け、本町においても「新水道ビジョン」の趣旨に沿った今後 10 年間の事業運営の指針を定める必要があることから、この度「信濃町水道事業ビジョン」を策定することとしました。

1.2 信濃町水道事業ビジョンの位置づけ

「信濃町水道事業ビジョン」は、本町の総合計画である「信濃町第5次長期振興計画」で示された基本方針を反映し、平成25年3月に厚生労働省が公表した「新水道ビジョン」で掲げられた「持続」・「安全」・「強靱」の理想像について、水道事業が目指すべき方向性と実現のための方策を示すものです。

本ビジョンは、本町の社会情勢や地域特性を踏まえ、水道事業の現状を適切に評価・分析したうえで、本町の水道事業として目指すべき理想像を設定し、これを実現するための方策を示したマスタープラン（基本計画）とするものです。

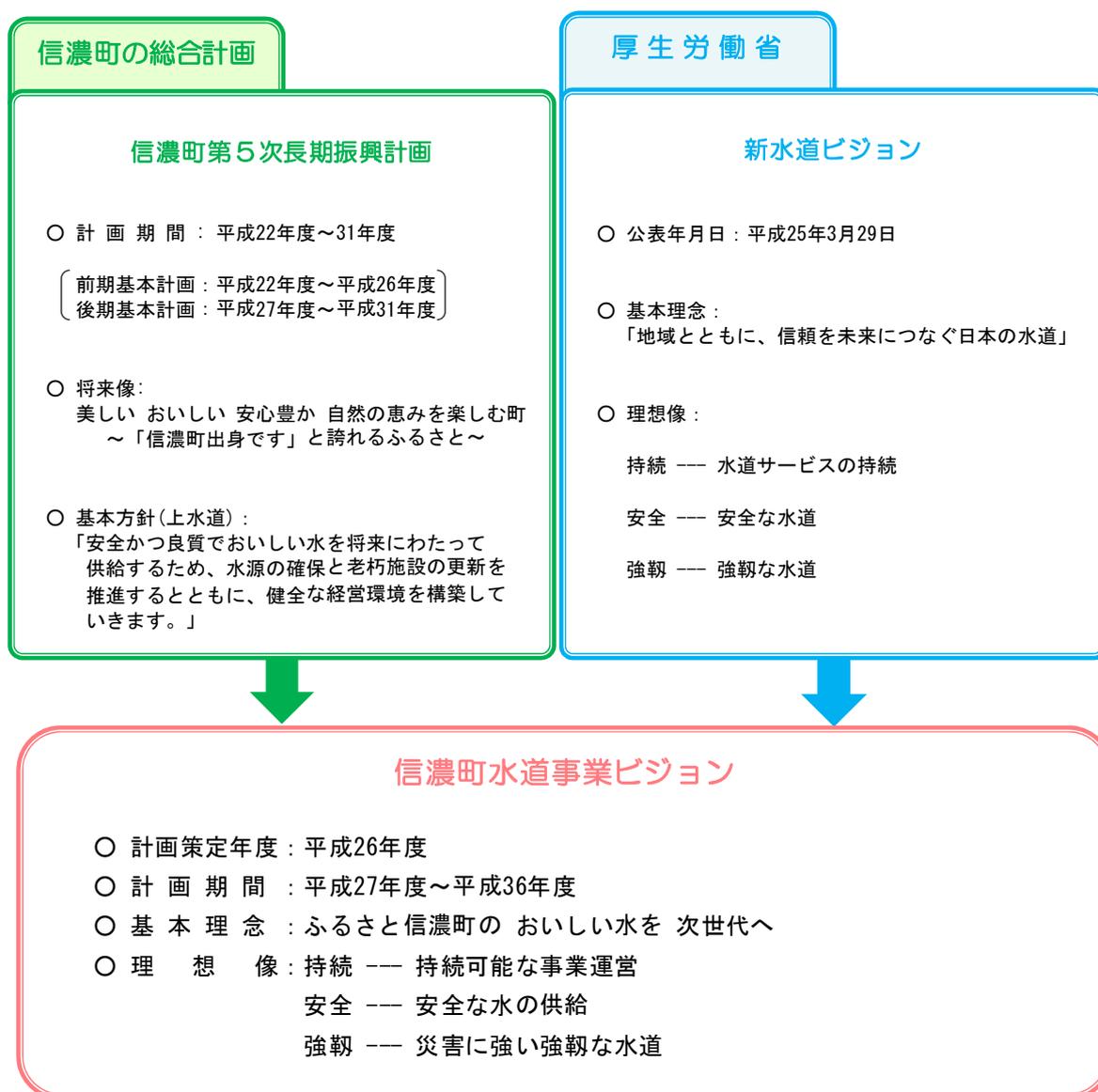
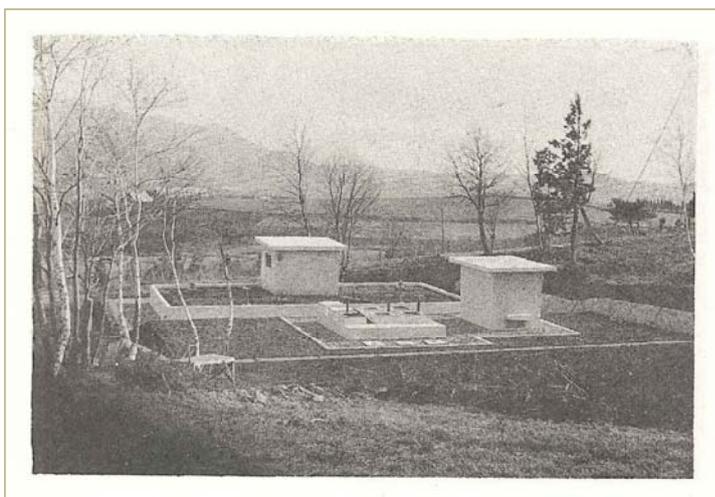


図-1.1 信濃町水道事業ビジョンの位置づけ

信濃町の水道のあゆみ

「水道のあゆみ 創設15年史」より抜粋

旧黒姫高原水道水源
ボーリングの様子 (S44.10) →



← 黒姫第1配水池 (S43 築造)

野尻第2配水池 (S40 築造) →

